学力向上のための重点プラン【小学校】　新宿区立花園小学校

■　学校の共通目標　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	○タブレット端末を活用した授業づくりの工夫及び、デジタルドリルの活用を行う。 ○デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、基礎・基本の定着のための指導方法の工夫を図る。
環境作り		○授業のユニバーサルデザイン化を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ○タブレット端末等も活用して、毎日の家庭学習を定着させる。 ○図書環境を整え、読書指導を通して語彙力の向上を目指す。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析（各種調査から）	学校が取り組む目標（日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・基本的な学習内容の定着 ・意欲的に授業に取り組む児童の育成 ・進んで読書に取り組む児童の育成	①　ひらがな・カタカナ・漢字の繰り返し練習 ②　数の概念の育成と、計算練習の重点取り組み ③　児童が意欲をもてるような課題の提示 ④　デジタルドリルの活用 ⑤　図書館司書との連携
2学年		・語彙力アップと基礎・基本の習熟 ・全員参加を目指した授業づくり ・進んで話したり聞いたりする主体的態度の育成	①　漢字・計算の繰り返し学習 ②　デジタルドリルの活用 ③　児童一人ひとりに即した課題の設定 ④　ペア学習の導入による話す・聞く力の定着
3学年	・国語は、学力定着度調査の結果、知識・技能の正答率が全国平均より低く、課題である。 ・算数は、思考・判断・表現力を高める指導の工夫が必要である。	・語彙を増やし、言葉のまとまりを理解する力の育成 ・自分の考えを式・図・言葉を使って順を追って説明する力が必要である。 ・計算や九九の定着が必要である。	①　音読、漢字の繰り返し学習 ②　新出漢字を使った文作り ③　国語辞典を使っての意味調べ ④　デジタルドリルの活用
4学年	・国語は、知識・技能の正答率が平均に届かず、課題である。 ・算数は学力定着度調査の結果で、全般的に基礎学力の定着に課題がある。	・基礎・基本の習得を図ると共に、話したり、書いたりというアウトプットの活動を取り入れ、思考・判断・表現の力も伸ばしていく。 ・学力の低い児童には、スモールステップで達成感をもたせながら行う。	①　漢字・計算の繰り返し学習 ②　デジタルドリルの活用 ③　グループの話し合い、学び合い学習ができる力の育成。 ④　学習の振り返りによる自己肯定感の向上
5学年	・学力定着度調査の結果、国語は、思考・判断・表現力について全国平均であり、定着がみられる。知識・技能の応用的な面がよくできている児童が多いが、言葉・情報・言語文化等の基礎的な学習の定着が弱い児童が一定数いる。 ・算数は、全ての観点、領域で全国平均を上回っている。	・漢字を読めるようになること、そして、字形を意識した正しい漢字を書けるようになることを指導する。また語彙数を増やし、読解や文章を書くときに活用できる児童の育成を目指す。 ・基礎基本の定着が低い児童は、答え待ちや助け待ちをする傾向がある。スモールステップの学習を取り入れ、段階的に自分の考えや意見を表現できる児童の育成を目指す。	①　漢字・計算の繰り返し学習 ②　国語辞典を活用しての意味調べ ③　デジタルドリルやアプリの活用 ④　グループでの話し合い活動の充実 ⑤　学習始めの既習事項の振り返り、学習終わりの対話的な振り返り場面の設定
6学年	・国語と算数は、基礎・応用ともに全国平均よりも正答率が４ポイント以上高く学習の定着がみられる。 ・算数は、学力定着度調査の結果、割合を求める問題への正答率に課題があることが分かる。	・漢字については定着が見られるため、学んだ漢字を文章の中で活用できる力をさらに高める。 ・国語の文章や算数の設問を正確に読み取るために、読解力を高める。 ・「割合」や「平均」といった数学的な用語の意味を理解し、正確に求められるようにする。	①　デジタルドリルを活用した漢字や計算等の個別最適な学習環境 ②　グループ学習や一斉学習による、多面的・多角的な問題理解と問題解決 ③　自分らしい表現を用いた学習の振り返りによるメタ認知の向上

特別支援		・語彙力を増やす。 ・話し合い活動等、児童同士の学び合いの場を設定する。 ・基礎基本の学力定着を図る。 ・社会的な自立を図る。	① 個別指導計画と個別支援計画による個に応じた指導の展開 ② 休みの日の出来事や自分の意見等を発表したり友達の意見を聞いたりする言語活動 ③ 週１回程度の話型をヒントにした話し合い活動 ④ タブレット端末のアプリやワークシートを使った個別最適な学習 ⑤ 家庭と連携したスモールステップによる既習事項の定着

学力向上のための重点プラン【小学校】　　新宿区立花園小学校

【中間評価】

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
○デジタルドリルと紙のドリルを併用することで、解く問題数を確保し、繰り返し学習に取り組むことができた。また、各単元のまとめや復習で同様に取り組むことで、習熟につながった。 ○個の習熟度や進度に応じてデジタルドリルに取り組むことで意欲的に学習に取り組むことができた。 ○児童・生徒の学力向上を図るための調査や、新宿学力定着度調査の結果を分析し、学習に苦手意識を感じている児童や課題が多い学習内容への手立てを各学年で検討し実施することができた。 ○教材の提示方法を工夫する、学習のスモールステップ化によって、児童の学習意欲を高め、学力向上につなげることができた。 ▽児童にとってどのような授業が分かりやすいか、分析を継続して行っていく。	●継続してICT機器を活用した個別最適化された学びを行うために、教職員による児童理解と一人一人の学習状況の理解を継続・校内共有していく。 ●基礎的な学習の定着を目標に漢字や計算等の繰り返し学習を継続させていく。 ▼授業力向上のために教師間でお互いの授業を見合う時間を確保するなど学校の教育力向上に努める。

【期末評価】

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
○授業力向上のために教師間でお互いに授業を見合う時間を設けたことで、学校の教育力向上につながった。また、見合うことで、児童にとって分かりやすいかどうか客観的に捉え、改善につなげることができた。 ○デジタルドリルと紙のドリルを併用することで、１年間の復習を繰り返し取り組み、理解度を深めることができた。また、デジタルドリルでは、各児童に応じて、苦手な学習内容に重点的に取り組むことができた。 ▽文や文章の読み取りが苦手な児童が見られる。	●授業力向上のために、教職員間で見合う時間を、来年度も継続する。 ●デジタルドリルと紙のドリル（プリント）等を活用することで一定の成果が得られた。学校全体で来年度も継続する。 ●授業のユニバーサルデザイン化を目指したことで、児童の学習意欲を高め、学力向上に努めることができた。来年度も継続する。 ▼文や文章の読み取りができるよう、学校全体で共通の課題意識をもって取り組んだり、方策について検討したりする。